

# 2021年度賃金引き上げ等に関する申し入れ

## 第1回団体交渉(趣旨説明)で職場の切実な声を訴える！

### 高まった労働力に見合う賃金と、コロナ禍での安定した雇用と生活水準を求めよう！

#### バス関東本部

- ・基本給一律6,000円(定昇含まず)引き上げること。\*契約社員Aを含む
- ・契約社員B・日給制臨時雇員の基本日額を一律15,000円にすること。
- ・時給制臨時雇員の時給を一律2,000円にすること。
- ・定期昇給を実施すること。
- ・「65歳定年制」を導入すること。

#### 【組合】

- ・同業他社・他業種への出向や、地震での新幹線代替輸送に対応し奮闘している。
- ・コロナ後の立て直しを計画する上で組合員モチベーションを高めることは必須。
- ・高まる労働力の価値を評価し、「十分な人への投資」を行うべきだ！



**雇用の確保は最優先事項だ!!**

#### バス東北本部

- ・基本給一律6,000円(定昇含まず)引き上げること。
- ・北東北の契約社員の基本日額を60円引き上げること。
- ・上記を改善の上、契約社員の基本日額を一律300円引き上げること。
- ・60歳未満の契約社員の希望者全員をバス社員に登用すること。
- ・定期昇給を実施すること。
- ・55歳以降の社員に対し、定期昇給を実施すること。
- ・65歳定年制を導入すること。

#### 【組合】

- ・古川営業所・秋田支店の業務移管やダイヤ見直し等、組合員は葛藤のなか経営状況を考え向き合ってきた。
- ・今年度もベアゼロなら4年連続となり、物価上昇や消費増税等で生活が苦しい。コロナ終息を見据えモチベーションを上げ、人材流出を防ぐためにベアが必要。

#### ステーションサービス協議会

- ・基本給一律6,000円(定昇含まず)引き上げること。
- ・定期昇給を実施すること。(昇給係数「4」)



#### 【組合】

- ・JR東日本グループの厳しい決算の中、第3四半期決算で「増収増益」となり、営業収益は前年度を大きく上回った。私たちの努力の結果が決算に現れている！
- ・駅遠隔操作システムでは、宅配便、郵便物、券売機保守、車イス対応、券売機トラブルなど被制御駅への係員対応依頼が日に50件以上発生し苦勞している。
- ・事業拡大に伴い新採の確保が必須。企業の魅力維持には賃上げは重要だ！
- ・ステーションサービスという独立した会社として、努力と苦勞に報いるためにも満額回答を要求する。

3月7日、「命を守ろう」工務安全集会2021を開催し、新型コロナウイルス対策を行うにつつ、中央本部と各地方本部をWebでつなぎ、21名が出席しました。

山手貨物線接触死亡事故(山貨事故)から22年が経過し、この事故後に入社した組合員が多数となりました。山貨事故は尊い命の犠牲の上に安全風土の基礎となる「原則線閉」を築ききつかけとなった事故です。集会では事故の教訓を再確認し、同種事故である大滝踏切での待避遅延についての原因究明委員会の報告を行いました。メンテナンスフリーが進み、参加者からは庭先意識や設備への愛着が薄れてきていると警鐘が鳴らされました。

また、佐藤中央執行委員長から「工務



職場の将来展望と社会の変化の中で組織

山貨事故を原点に自らの言葉で危機感を語り、工務部会「命を守ろう」工務安全集会「工務職場の将来を切り拓こう！」

2月14日、バス土浦分会の退職者・再加入者・出向者の皆さんの激励会を開催し、コロナ防止策を施した上で多くの仲間が結集しました。

冒頭、徳野派遣代表は「赤字の難局を乗り越えるために安全を確保しつつ業務されていることに感謝申し上げます。バス関東から同業他社への出向に決意してくれた仲間、定年を迎えエルダー社員として奮闘される仲間、再加入を決議しJR東労組へ結集してくれた仲間、そして再加入に向けた分会の実践に敬意を表します」と挨拶しました。

激励会の中では、退職された仲間への退職記念品と花束贈呈を行い、「今後もエルダー組合員として分会で活動していく。さらなる再加入を目指す」との力強い挨拶が述べられました。また、再加入



2月23日開催予定のJR東労組サークル協議会「2021年サークルセミナー」は、緊急事態宣言の延長を受け、書面開催としました。

今年のセミナーは、「21春闘勝利に向けたJR東労組の課題」というテーマで佐藤中央執行委員長の講演録と、協議会が作成した「新型コロナウイルス感染症防止マニュアル」、各部の活動報告等をまとめた冊子を各地方担当者・各部長へ送付する形式としました。

2月14日、バス土浦分会の退職者・再加入者・出向者の皆さんの激励会を開催し、コロナ防止策を施した上で多くの仲間が結集しました。

冒頭、徳野派遣代表は「赤字の難局を乗り越えるために安全を確保しつつ業務されていることに感謝申し上げます。バス関東から同業他社への出向に決意してくれた仲間、定年を迎えエルダー社員として奮闘される仲間、再加入を決議しJR東労組へ結集してくれた仲間、そして再加入に向けた分会の実践に敬意を表します」と挨拶しました。

激励会の中では、退職された仲間への退職記念品と花束贈呈を行い、「今後もエルダー組合員として分会で活動していく。さらなる再加入を目指す」との力強い挨拶が述べられました。また、再加入

分会活動で「信頼」を深め、バス職場の難局を乗り越えよう！

水戸地本「バス退職者・再加入者・出向者激励会」

3月7日、「命を守ろう」工務安全集会2021を開催し、新型コロナウイルス対策を行うにつつ、中央本部と各地方本部をWebでつなぎ、21名が出席しました。

山手貨物線接触死亡事故(山貨事故)から22年が経過し、この事故後に入社した組合員が多数となりました。山貨事故は尊い命の犠牲の上に安全風土の基礎となる「原則線閉」を築ききつかけとなった事故です。集会では事故の教訓を再確認し、同種事故である大滝踏切での待避遅延についての原因究明委員会の報告を行いました。メンテナンスフリーが進み、参加者からは庭先意識や設備への愛着が薄れてきていると警鐘が鳴らされました。

また、佐藤中央執行委員長から「工務

職場の将来展望と社会の変化の中で組織

山貨事故を原点に自らの言葉で危機感を語り、工務部会「命を守ろう」工務安全集会「工務職場の将来を切り拓こう！」

2月19日、「営業職場意見交換会」をWeb会議で開催し、34名の仲間が集まりました。

「駅の変革」の発表以降、チケットの拡大と推し進め、話せる指定席券売機の拡大といった「みどりの窓口」に抱けない販売体制へのシフトと合わせ、作業ダイヤに「変革」「コトづくり」といった「作業ダイヤに捉われない」時間が組み込まれ、業務の質と内容が変化しています。参加者からは「隣駅に話せる指定席券売機が導入されて払戻し件数が1.5倍になった」「作業ダイヤにチャレンジタイムという時間ができて自己啓発の時間になっている」「びゅうプラザが駅たびコンシェルジュとなり、案内業務とネット販売中心へとシフトしていく」などの変化が語られました。また、駅の委託や無人化が進む地方では「ポイント不転換時

2月23日開催予定のJR東労組サークル協議会「2021年サークルセミナー」は、緊急事態宣言の延長を受け、書面開催としました。

今年のセミナーは、「21春闘勝利に向けたJR東労組の課題」というテーマで佐藤中央執行委員長の講演録と、協議会が作成した「新型コロナウイルス感染症防止マニュアル」、各部の活動報告等をまとめた冊子を各地方担当者・各部長へ送付する形式としました。

サークルの「つながり」を基礎に、明るく楽しい活動で仲間を増やそう！

サークル協議会「2021年サークルセミナー」

